

仕組み図解 — 発注サイクルの違い (Stocky・Stockie・UreyukiBox)

Shopify 純正の在庫管理アプリ Stocky の終了（**2026年8月31日**）を前に、「いまの Stocky」「海外の移行候補 Stockie」「UreyukiBox」の3つを、**発注のサイクル（発注 → 入荷 → 在庫 → 次の発注）**がどう回るかという目線で1枚ずつ図解しました。エンジニアでない方にもそのままお見せいただける資料です。競合に関する記載は 2026-08-27 時点の公開情報にもとづき、出典 URL・確認日は「02 比較表」の脚注に記載しています。

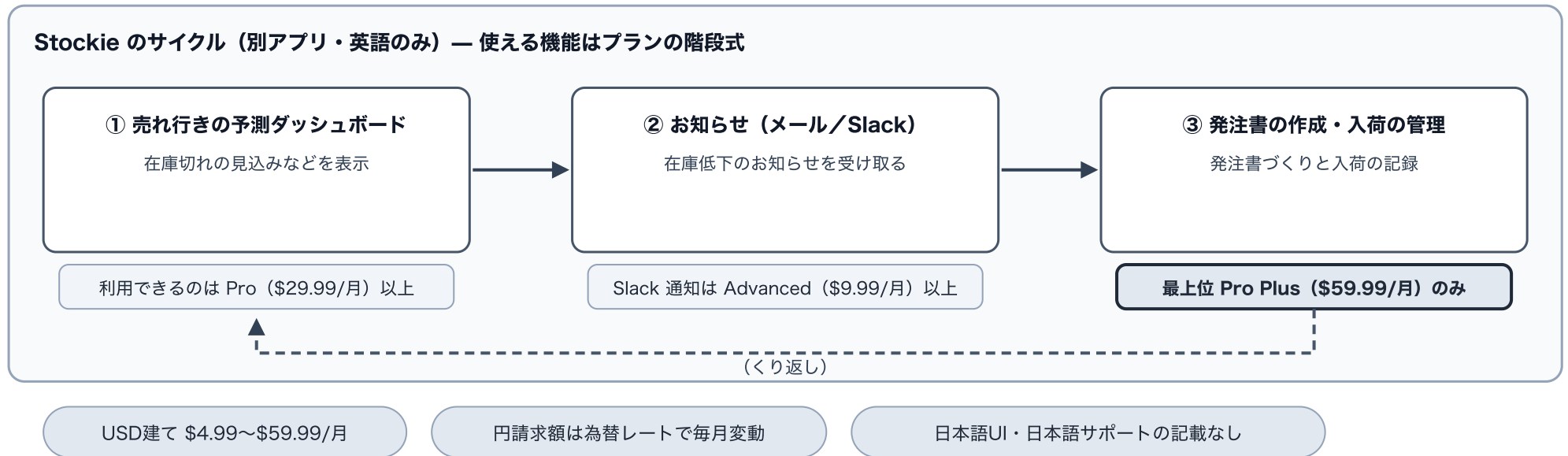
1. Stocky (Shopify 純正・2026-08-31 終了) の仕組み



特徴の注記

- Stocky は Shopify POS Pro に付帯する純正アプリで、単独の追加費用なしで使えてきました。
- 画面は英語中心です（Shopify ヘルプセンターに日本語ドキュメントはあります）。
- 適格請求書（8%/10% の税区分・登録番号の印字）には対応していません。
- **2026年8月31日に終了し、Stocky APIも同日に停止します。**終了後も少なくとも90日間は読み取り専用で書き出せますが、仕入先はStockyから書き出せません。

2. Stockie（海外の有力候補）の仕組み



特徴の注記

- 価格は USD 建てで、Basic \$4.99 / Advanced \$9.99 / Pro \$29.99 / Pro Plus \$59.99 の4段階（月額）です。日本のストアへの請求は円ですが、USD 建て価格を為替換算するため**請求額は毎月変動**します。
- 予測ダッシュボードは Pro 以上、発注書の作成・入荷の管理は最上位 Pro Plus のみ、Slack 通知は Advanced 以上です。図のサイクルを一気通貫で使う場合は最上位プランが必要です（2026-08-27 時点の公開情報より）。
- 対応言語は English のみ（Shopify App Store の記載、2026-08-27 確認）。日本語での問い合わせ対応は公開情報では確認できませんでした。
- 出典: 「02 比較表」の脚注（出典 URL・確認日。Shopify App Store の公開情報、2026-08-27 確認）。

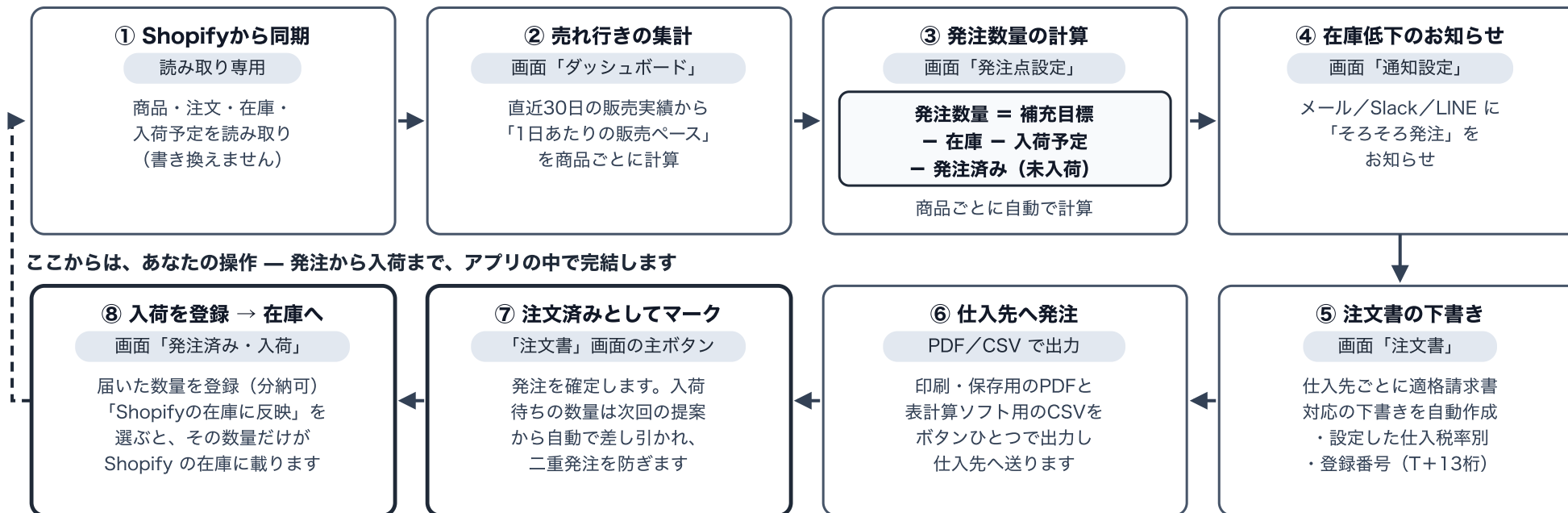
3. UreyukiBox の仕組み — 予測から在庫反映まで、アプリの中で一周する

毎朝1回の自動処理で①～④（同期・予測・発注数量・お知らせ）まで回り、そこから先の発注 → 注文済み → 入荷 → 在庫反映（⑤～⑧）もアプリの中で完結します。図中の名前は実際の画面名・ボタン名です。

予測から発注・入荷・在庫反映まで — ひとつのアプリで一周します

在庫が変わるのは、あなたが操作したときだけ

毎朝1回、自動でここまで — ストア側の操作は不要



ここからは、あなたの操作 — 発注から入荷まで、アプリの中で完結します

⑧まで終わったら、翌朝また①へ（自動でくり返し）

発注のひとまわりが、アプリの中で閉じます

- ・ ①～④は毎朝1回・全自動。あなたの操作は⑤～⑧だけです。
- ・ Shopify の在庫が変わるのは、⑧で「在庫に反映」を選んだときだけです。
- ・ 純正の注文書でも入荷予定を管理したい場合だけ、CSV で橋渡しできます（任意・次ページ）。

ポイント: 二重発注になりません

純正の「入荷予定」と、⑦で確定した
「発注済み（未入荷）」の両方を
差し引いてから数量を出すためです。

特徴の注記

- 図中の名前は実際の画面名です（実際のナビは ホーム／ダッシュボード／注文書／在庫分析／資金繰りカレンダー／セット商品の在庫／発注点設定／発注元情報／Stocky移行／通知設定／プラン）。8月31日までのStocky APIコピー、9月1日以降の独立したStocky CSV取込、保存データの閲覧はこの入口から進みます。MOQ・Statisticsは表貼り付けにも対応し、手動メモと証跡は別途保存できます。
- 同期は**読み取り専用**です。在庫への書き込みが起きるのは、**あなたがアプリ内で操作したときだけ**——①入荷登録で「Shopifyの在庫に反映」を選んだとき ②在庫調整を登録したとき ③棚卸しを確定したとき ④拠点間の在庫移動を登録したとき——で、同期や自動処理が在庫を書き換えることはありません。アプリを入れたせいで在庫がずれる事故は構造上起きません。
- お知らせは**売れ行き（販売速度）に安全在庫・間欠需要・51カ国の季節暦を加味した需要予測**にもとづきます。イベント時期の判定に1年分の履歴は不要ですが、数量は自店販売実績が根拠で、根拠がなければ数値提案を出しません。計算の内訳は画面で確認できます。
- プランによる違い: Stocky データのコピー（移行）は Free から使えます。発注点の調整・予測からの自動下書き・毎朝のメール通知・資金繰りカレンダーは Starter 以上、Slack／LINE 通知と在庫分析・セット商品（BOM）は Pro 以上です。扱える拠点は Free 1、Starter 2、Pro 5、Business 無制限。拠点間の在庫移動だけはBusiness限定です。
- **このひとまわりは、純正との連携なしで完結します。** 予測から注文書づくり、発注の確定、入荷の登録、Shopify の在庫への反映（①～⑧）までがアプリの中で閉じます。Shopify 純正の**注文書画面でも**入荷予定・受領を管理したい場合だけ、次章の CSV 連携（任意）を使います。
- **発注の続き（注文済み → 入荷）もアプリ内で回ります。** 注文書画面の主ボタン「注文済みとしてマーク」で発注を確定すると、入荷待ちの数量が次回の発注提案から自動で差し引かれ（二重発注の防止）、「発注済み・入荷」ページで届いた数量を登録（分納可）すると、その数量だけを Shopify の在庫へ反映できます。
- ⚠️ 純正発注書とのAPI直接連携は現在未提供で、提供時期・実装の約束はありません。現行の需要予測・注文書づくりは新APIに依存せず、CSVの橋渡しを使えます（次章参照）。

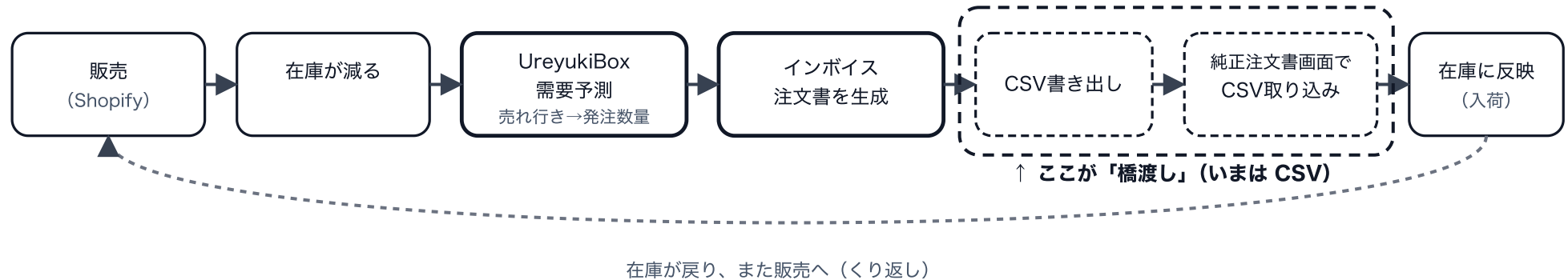
4. (任意) 橋渡しのループ — Shopify 純正の注文書との連携 (いま/これから)

この章はすべてのストアに必須ではありません。 第3章の毎朝のサイクル (予測 → インボイス注文書) は、この橋渡しなしで完結します。橋渡しが役立つのは、**Shopify 純正の在庫台帳にも入荷予定・受領を反映したい**場合です。

Shopify 純正の注文書は、**外部アプリから直接書き込めない**仕様です (Shopify の制約)。UreyukiBox はこの制約を「CSV の橋渡し」で越えます。API直接連携は現在未提供で、提供時期・実装の約束はありません。

Shopify標準にも、発注書・在庫移動・仕入先管理、Flowによる低在庫アラート、Sidekickによる販売データからの商品提案と発注書／移動の下書きがあります。リードタイムやMOQはmetafield/metaobjectに参考値として保存できますが発注・入荷計算とは未連携で、発注書を仕入先へ直接メール送信できず、実原価の自動按分也没有。UreyukiBoxは需要・リードタイム・MOQ方針の継続運用、通知、仕入先への発注書メール、実原価 (Pro以上) で差別化します。

発注データを Shopify 純正の注文書へ流し込む (いま=CSV の橋渡し)



現在: 純正注文書への書き込みAPIは未提供 (2026-07の試験提供は読み取りのみ)

日常運用はCSVで橋渡しできます。API直接連携は未提供で、実装時期の約束はありません。
 現行版は新APIに依存せず、需要予測と発注書の日常運用はそのまま使えます。

タイムライン — 「橋渡しの手段」がどう変わるか



- この「橋渡し」は第3章の Stocky データ移行 (過去データの引っ越し) とは別物で、**毎回の発注を純正の注文書につなぐ日常の仕組み**です。
- 入荷予定の読み取りは既に対応済みで、発注数量の計算で自動的に差し引かれます (二重発注の防止)。

5. ひと目でわかる違い

観点	Stocky（～2026-08-31）	Stockie	UreyukiBox
月額のかかり方	POS Pro に付帯（追加費用なし） ※2026-08-31 終了	\$4.99～\$59.99/月（USD建て→円換算のため請求額は毎月変動）	JPY請求店 ¥0～¥12,800／非JPY請求店 \$0～\$83（いずれも固定）
日本語の画面・サポート	－（英語中心。Shopify サポート経由の日本語問い合わせは可）	－（対応言語はEnglishのみ）	◎ 日本語ネイティブUI・日本語サポート（画面・通知・サポートとも英語に対応）
税率別明細・登録番号を載せた発注書	－（対応なし）	－（公開情報では確認できず）	◎ 設定した仕入税率別の明細・登録番号を印字。税率0の国は税セクション非表示
Stocky からの移行	－（本体）	－（公式の移行案内は確認できず）	◎ 独立した2経路：8/31までのAPIコピー＋9/1以降のStocky CSV取込。MOQ・Statisticsは表貼り付けにも対応。API取得ペイロード、CSV原本、MOQ・Statisticsの貼り付け原文、正規化行、取得条件を「Stockyデータ」の6分類で閲覧・検索・CSV/PDF出力。メモと証跡は別途保存可。プラン対象外の汎用正規化行はサーバー側でマスク。販売用税区分は現行の仕入税率設定へ反映せず、現行商品への税率割当も変更しない
Shopify の在庫データへの書き込み	あり（受領すると在庫に反映される）	－（公開情報では確認できず）	あり（アプリ内の入荷登録で受領した数量だけを反映）。同期・自動処理は書き込まないため、導入で在庫がずれる事故が構造上起きない。反映先は Shopify 純正の受領操作と同じ在庫台帳＝Stocky と同じ台帳に載る

凡例: ◎ 強い ／ －（なし、または公開情報では確認できず）

本資料は 2026-08-27 時点の公開情報にもとづきます。競合各社の記載の出典（URL・確認日）は「02 比較表」の脚注と共通です。競合の仕様・価格は変動するため、実際の選定時は各社公式サイト・Shopify App Store の最新情報をご確認ください。

6. Stocky から移行した後の日常運用

日本のストア向けに、UreyukiBox は発注・入荷・在庫確認の日常運用と、日本語・適格請求書対応を提供します。Shopify標準にも発注書・移動・仕入先管理、Flow通知、Sidekick提案・下書きがあるため、機能の有無だけではなく、需要・リードタイム・MOQ方針の継続運用、通知、仕入先への発注書メール等の差で選びます。

- **UreyukiBoxで継続できる運用:** 51カ国の国別季節暦と自店販売実績にもとづく発注リマインダー／設定税率別の注文書／メール・Slack・LINE通知／在庫分析／8月31日までのStocky APIコピー／9月1日以降の独立したStocky CSV取込／MOQ・Statisticsの表貼り付け対応／手動メモ・証跡保存と「Stockyデータ」での閲覧・出力。
- **入荷の在庫反映は Stocky と同じ台帳:** UreyukiBox の入荷登録は、受領した数量だけを **Stocky と同じ Shopify の在庫台帳**へ反映します。Shopify 純正の受領操作を使い続けることもできます（その場合はアプリ側の「Shopifyの在庫に反映」をオフにして二重計上を防ぎます）。
- **発注 → 受領のループは、すでにアプリ内で完結しています:** 注文書の「注文済みとしてマーク」で発注を確定し、「発注済み・入荷」で入荷を登録（分納可）、その数量だけを Shopify の在庫へ反映するところまでが v1 に入っています。
- **純正注文書との連携:** 現行の受け渡し手段はCSVです。API直接連携は現在未提供で、提供時期・実装の約束はありません。

上記の将来対応は Shopify の API 提供状況によります（確約ではありません）。